

境界線巡り ~押立町付近~



先号では府中市の北西の端を探索しましたので、今回は対角線上の東南の端にある押立町にスポットを当て、現地を訪問して元自治会長さんにお話を伺いました。そこには不思議な境界線がありました。



《調布市と稲城市に接する押立町》

押立町は府中市の東南端にあって、東は調布市と接し、南は多摩川の対岸の稲城市と接する町です。

稲城市との市境は、多摩川の中央ではなく、稲城市側の河川敷にあります。府中市側の堤防約9.4キロは「府中多摩川かぜのみち」として整備され、ウォーキングやサイクリングの素敵な憩いの道となっています。



《押立町の由来》

幕末の地誌『新編武蔵風土記稿』には、現在の4丁目、押立文化センターの北側を中心に押立村があり「民戸九十四軒」とあります。当時の集落としては大きかったようですが慶長元年(1596年)の大洪水により多摩川の流れが村を南北に分断し、多摩川の南となった押立村は、現在の稲城市押立です。

《押立出身の川崎平右衛門》

江戸時代中期に幕府代官として活躍した川崎平右衛門は、武蔵国多摩郡押立村の名主の出身です。元自治会長さん曰く「彼は郷土の誇りです」と。彼の様々な業績に感謝しつつ、押立町4丁目の龍光寺にあるお墓にお参りしては如何でしょうか。ご本尊の阿弥陀如来坐像は、府中市重要文化財です。

《ギザギザの市境》

調布市との市境を歩いてみました。約50年前に西武不動産が府中・調布の両市にまたがって高級住宅地を開発した時、両市で協議のうえ、従来の市境を1軒ごとに区分けして引き直したため、ギザギザの市境となったところがあります。押立町5丁目と調布市上石原3丁目の境界で、それぞれ西武押立自治会(府中)、西武自治会(調布)と分かれています。



同じ住宅街が府中と調布に分かれた結果、西武自治会の住宅から飛田給小学校まで約7分なのに対して、西武押立自治会からは南白糸台小学校まで約25分と遠く、途中までは親が引率し、そこから集団登校をすることになってしまいました。そのため府中市の小学生は朝夕のウォーキングで体を鍛えられ、なお一層元気になったようです。両自治会の間には縄張り意識などはなく、同じ住宅地として良好な関係であるとのこと。また防災意識が高く、防犯防災をかねたワンワンパトロールによってワンちゃんによるつながりが生まれています。

開発当初、引っ越してきた頃は、多摩川と桜並木の景観を満喫していました。今は皆さんも年をとり、府中市中心部へは遠いため不便を感じ、買い物などは近隣の調布側を利用することが多いとのことでした。

地図:観光ガイドマップ (府中市観光協会発行)より引用

<市境を歩いた人> 渡辺、鈴木

<編集後記> 秋といえば「文化・芸術の秋」「スポーツの秋」などいくつもの修飾語が付きます。文化・芸術の「生涯学習フェスティバル」も9月盛会のうちに終了しましたので、今号では「スポーツ」にスポットを当て生涯学習センターの体育施設や自主グループを紹介しました。長生きにも健康にも運動が肝心です。みなさんもこの秋には是非スポーツを！ (西谷)

企画・編集 : 府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」

共同発行 : 府中市文化スポーツ部文化生涯学習課
ふちゅう生涯学習センター共同事業体

府中市生涯学習センター

〒183-0001 府中市浅間町1-7 Tel 042-336-5700

ホームページ: <http://fuchu.shogaigakushu.jp/>